

絆きずな 12号

平成28年11月17日発行 発行責任者：吉竹一泰 文責：喜多川直子

毎週木曜日は「人権学習の日」です。自分の言動を振り返ったり、さまざまな人権問題について考えたりすることで、自分を磨いていく日にしましょう。

左の記事は、平成28年10月10日の神戸新聞の記事です。この記事を読んだ感想を紹介します。

<感想より> 1年

*やっぱり気づくというのは本当に大切なんだと改めて感じました。3人に声をかけて3人とも反応してくれないのは、向井さんはすごくショックだっただろうな—と思いました。この記事を読んで、これから学校でも家でもしっかり周りを見るようにして、もし何かがあったら気づくことができる人になりたいと思いました。

*向井さんが言っていたように、ホームドアがあればいいと思うけれど、多くのお金が必要になると思います。だから、まずは周りの人が障害者の方たちが困っているのを見かけたら声をかけたりして助けることが大切だと思いました。障害者の方が安心して安全に暮らすことができるように、周りの人一人一人が気づくことが大切だと思いました。

*声をかけても動かない人やそれを見ていた人が注意することがとても大切だと思いました。ケガが起こってからだと遅いけれど、一人一人がきちんとルールを守っていれば防げる事故はたくさんあると思いました。みんなが気をつけたらみんなが幸せになれると思いました。

*ホームにいる人全員がスマホやイヤホンをつけていないと思うので、周りの人がすぐに気付けば、このような事故は起きなかったと思います。「自分はじゃまになっていないから」と言って周りの人が何もしないのがいけないと思いました。一人一人注意してほしいです。

<感想より> 2年

*点字ブロックがせっかくあるのに、そういった人のせいで使えずに、本当ならば何も起きないはずの大ケガにいたってしまったことが残念だと思いました。点字ブロックは目の不自由な方のためにあるものなので、

障害者に対して、周りの人の「気づき」が大切。全盲に近い症状で、駅ホームから転落し重傷を負った鍼灸マッサージ師、向井喜博さん(56) 明石市はそう実感する。 昨年8月、向井さんは知人に会いに行こうと正午前、自宅最寄りのJR大久保駅(明石市)に到着。白杖を手にホームの点字ブロック上を歩き始めた。

周囲の「気づき」が命綱に

転落し重傷を負った男性

ブロック上に人がいた。「すみません」と言うが、道を空けてくれない。スマホか、イヤホンから流れる音楽にでも気を取られているのか。かわし、再びブロック上に戻った。また人がいた。声を掛けても、動く気配はない。同じようにブロックから離れ、戻ろうとした時、方向感覚を失った。右足を踏み外し、線路に

落ちた。

ホームに引き上げられ、その1、2分後に電車が来た。骨盤の一部を粉碎骨折し1カ月半入院。仕事復帰に4カ月かかった。

「最大限に注意して歩いたつもりだったが…。恐ろしくて、もう一人でホームに行けない。ホームドアさえあれば。一方で思う。「あの時、3人が3人とも反応してくれなかった。そういう世の中の問題なのかもしれない」

(藤村有希子)

ブロックの上に乗らないようにしないといけないと思います。早く気付いていたら起きなかったことなので、この方の言うとおりに、気づくことが大切だと思いました。

*もしも点字ブロックの上にいる人がブロックに乗っていなければ線路に落ちなかったはずですが。何も考えずにブロックの上にいると、ブロックが必要な人はとても困っていると思います。いつもは自分もあまり気にしないけれど、これからは今まで以上に周りに目を配って生活していきます。

